

愛知県中小企業の応援レポート (第二回)

大きく育てよう

「航空宇宙産業」



愛知県議会議員
(名古屋市北区選出)
荒深久明あらかふか くみお

- ・所属会派：減税日本一愛知
- ・23年度所属委員会：
- ・産業労働委員会
- ・地球環境
- 総合交通対策特別委員会
- ・ブログURL：
<http://genzei-arafuka.blog16.jp/>

昨年末、政府の「国際戦略総合特区」に愛知、岐阜両県などが共同で申請した「アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区（以下、『航空特区』という）」が指定を受けた。

大村知事は「国からは最上位の評価をもらった。日本一の産業集積があるこの地区をさらに強くしたい」と気炎を上げる。中小企業応援の荒深久明臣が、航空宇宙産業への関心を高める企業へ耳寄りな支援事業を紹介する。

航空宇宙産業の
基盤形成

「航空特区」は、日本で唯一、材料を含む研究開発から設計・開発、飛行試験、製造・販売、保守管理までの一貫体制を構築し、アジアの新興国等の追隨を許さない、欧米先進地域と肩を並べる一大集積地を形成していかうとするもの。この指定を受けると、海外からの部品調達コストの低減に向けた

関税撤廃や、部品の一貫受注システム構築に向けた中小向け支援、工場の新規立地に関する規制緩和など、企業にとって有利な施策が展開されていくことになるので、他産業からの参入が増え、産業の裾野が広がり、新たな雇用も生まれることが期待される。そこで、航空宇宙産業への参入をご検討の企業の方や、逆に新製品（商品）開発や販路拡大に取り組んで基盤を強化したい航空宇宙

産業の企業の方にお奨めしたいのが、次の二つの支援事業である。

一つは、愛知県産業労働部新産業課が二十三年度と同様に行う予定の「航空機部品製造認証取得支援事業」（注一）、もう一つは、「公益財団法人あいち産業振興機構（以下、「あいち機構」という）に、二十四年度から新設される「モノづくり応援ファンド」（注二）である。

今号は、航空宇宙産業に関してレポートさせて戴き、航空宇宙産業の基盤形成のお役に立ちたいと考える。

「航空特区」の主な特長

◎航空機産業の特長

航空機産業は、素材開発から部品加工、完成機の開発・試験、型式証明、製造、さらには整備保守・修理といった非常に長い経路期間を担う産業であり、産業としての総合力が競争力の大きな源泉となる。このため、航空機製造の各過程が同一地域に集約され、しかも航空機の開発・事業化に関して、その地域で機能が完結できるかが重要なポイントとなる。このことによって、航空機の継続的・連続的な開発と販売体制の確立が可能になり、航空機産業の発展継続性の確保に資することになる。

航空機の部品点数は、自動車の百倍以上（航空機一機は三百万点）であり、大手重工メーカーの一次下請けが約千二百社、従業員約二万人に上るなど、航空宇宙産業は、裾野が広く、機械・電気・部品・素材など広範な産業分野を集約する総合産業である。

航空機産業は、高度の信頼性と安全性を担保するための航空機固有の認証制度として、NadcapやJISQ100があり、認証取得支援

を行うなど中小企業の参入障壁の軽減を図っていくことが必要である。

◎目標

「米・シアトル」、「仏・ツールズ」に匹敵する第三極IIアジア最大・最強の航空宇宙産業クラスターを形成する。

II 中部地域の航空宇宙産業の生産高約七千億円（平成二十二年）↓約九千億円（平成二十七年）※仏・ツールズ地域（一兆円）

◎新規立地・設備投資の環境整備

総合特別区域法に定められた規制の特例措置や課税の特例等の活用、自治体による既存の補助金等に加えた新たな立地優遇策の創設など、関連企業が新規立地・設備投資しやすい環境整備を図る。（愛知県作成「国際戦略総合特別区域指定申請書」より抜粋）

「航空特区」指定は、空洞化対策になるか？

対米ドル円高が後退するどころか、欧州債務危機の深刻化で対ユーロも円高傾向が進んできている。輸出中心の製造業の海外移転が加速されており、「最近では、零細企業までもが、海外移転の相談にやってくる」と、年始挨拶で東海日中貿易センターを訪問した際に、原田専務理事がそう仰っていた。海外進出するということは、国内以上に厳しい競争に打ち勝つていく必要があるということである。ニッチではあるがオンリーワンの技術力があるというような強みでもなければ、経営基盤の脆弱な中小企業や零細企業が海外で世界と闘っていくのにはリスクが大き過ぎる。そうは言っても、国内には既に発注元の企業がいなくなっているし、追い詰められた段階での業種転換が成功するとも思われな。では、どうすればよいのか？

一つの成功事例が、昨年末愛知県産業労働部地域産業課から発行された「未来を拓く、中小企業の応援読本」の中に掲載されている。「工作機械、産業機械の部品から

航空・宇宙関連部品への参入」という記事である。コツコツと築き上げてきたものづくりの技術・腕を、他産業で活かしていく方向に目を向け、企業の存続・発展を図った話であるが、詳しくは、愛知県産業労働部地域振興課から冊子を手に入れてご覧になるか、あいち機構のホームページ上（トップページ右下バナー広告↓未来を拓く、中小企業の応援読本）をご参照ください。

前述したように、航空機産業は



photo by : sue (photost.jp)

裾野が広い産業である。事業の先細りで悩んでいる企業の方は、愛知県から公表される航空宇宙産業関連施策情報の取得に努めて戴くと共に、あいち機構などの専門相談員や県の産業技術研究所に相談し、まずは自社の強みを活かせる業種転換の方向性を見出して戴く。そして、助成事業の募集条件に合致するのならば、愛知県やあいち機構などの公的支援事業に申請して戴きたいと切に願うものである。

(注1) 二十四年度「航空機部品製造認証取得支援事業」については、予算が未確定の為、二十三年度の内容を参考情報としてご覧下さい。（愛知県ホーム→ビジネス・産業→愛知のものづくり→創出・育成・振興→記者発表→平成二十三年七月八日公表・航空機部品製造認証取得の支援希望企業を募集します！）

(注2) 「モノづくり応援ファンド」の対象産業は、航空宇宙産業だけではありません。詳しくは、あいち機構のホームページ上でご確認願います。（トップページの左側メニュー→助成金→あいち中小企業応援ファンド）